Rec'd PCT/PT0 14 APR 2005

特許協力条約

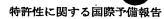
PCT

REC' JAN 2005
WIPO PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

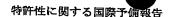
(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

(1 0 1 0 0 2 2 2 0 1 C 1)	E KUTUJ					
出願人又は代理人 の書類記号 15P409	今後の手続きについては、様式PCT	こついては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。				
国際出願番号 PCT/JP03/11995	国際出願日 (日.月.年) 19.09.2003。	優先日 (日.月.年) 15.10.2002				
国際特許分類 (IPC)	Int. Cl' F16J15/32					
出願人(氏名又は名称) NOK株式会	<u>.</u> 社					
第 I 欄 4 . 及び補充欄に示し 国際予備審査機関が認定した	が成定に使い送付する。	-ジからなる。 ************************************				
し」 第17個 発明の単一性のク	号の基礎	予備審査報告の不作成 D利用可能性についての見解、それを裏付				
国際予備審査の請求書を受理した日 06.04.2004	国際予備審査報告を	作成した日 15.12.2004				
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区段が関三丁目4番		Rのある職員) 3W 8817 昇 581-1101 内線 6352				



<u>-</u>					,
国際出願番号	PCT/J	33/ 3	L I	9 9	9 5

ATC Y LITTLE HIT SEE OF TETTER	
第1欄 報告の基礎	
1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除く	ほか、国際出願の言語を基礎とした。
□ この報告は、□ 語による翻訳 それは、次の目的で提出された翻訳文の言語で □ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調 □ PCT規則12.4にいう国際公開 □ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審	*ある。 <u>*</u>
2. この報告は下記の出願售類を基礎とした。 (法第 た差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、	6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出され この報告に添付していない。)
出願時の国際出願啓類	
X 明細書 第 1-8 ページ 第 ページ 第 ページ	、 出願時に提出されたもの *、 付けで国際予備審査機関が受理したもの *、 付けで国際予備審査機関が受理したもの
第	【、 出願時に提出されたもの*、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの*、 13.09.2004 付けで国際予備審査機関が受理したもの
X 図面	*、 付けで国際予備審査機関が受理したもの *、 出願時に提出されたもの *、 付けで国際予備審査機関が受理したもの *、 付けで国際予備審査機関が受理したもの
配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充欄を参照すること。	
3 補正により、下記の書類が削除された。 	· ·
□ 明細書 第 □ 請求の範囲 第 □ 図面 第 □ 配列表(具体的に記載すること) □ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載	ページ 項 ページ/図 載すること)
4 この報告は、補充欄に示したように、この報告 えてされたものと認められるので、その補正が	たに添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超 いされなかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c))
□ 明細告 第 □ 請求の範囲 第 □ 図面 第 □ 配列表(具体的に記載すること) 配列表に関連するテープル(具体的に記載	ページ 項 ページ/図 なすること)
* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と	記入されることがある。



国際出願番号 3/11995

第V欄 新規性、進歩性又は産業 それを裏付ける文献及び 1. 見解	上の利用可能性 説明	についての	の法第12ダ	€ (PCT3	5条(2)) にた	定める見解、	· · ·
新規性(N)	請求の範囲 請求の範囲	1					有 無
· 進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲 -	11					有 無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 _ 請求の範囲 _	1	•		·		有 無

文献及び説明 (PCT規則70.7)

文献1: JP 2001-355740 A (エヌオーケー株式会社), 2001. 12. 26, 【0017】~【0023】、図2, 図3 文献2:日本国実用新案登録出願62-61197号(日本国実用新案登録出願 公開63-168365号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を

撮影したマイクロフィルム (エヌオーケー株式会社)

1988. 11. 02, 第1頁第6行~第2頁第4行、第5頁第9行~ 第6頁第12行, 第3図

文献 3: JP 2-35272 A (株式会社阪上製作所)

1990.02.05. 特許請求の範囲、第3頁右上欄第15行~左下 欄第9行、第5頁左上欄第1行~第13行、第5頁左下欄第2行~第4

行第3図、第7図

請求の範囲1に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1の【0017】~ 【0023】、図2、図3の記載と国際調査報告で引用された文献2の第1頁第6行~第2頁第4行、第5頁第9行~第6頁第12行,第3図の記載又は、国際調査報告で引用された文献3の特許請求の範囲、第3頁右上欄第15行~左下欄第9 行、第5頁左上欄第1行~第13行、第5頁左下欄第2行~第4行、第3図、第7

図の記載とにより進歩性を有しない。
文献3には、第5頁第1行~第3行には、バックアップリングに突起を設けるこ とは、ロッドとの接触面に溝部(凹部)を作ることと考えることができる旨の記載 があり、文献2のシール部2に設けた軸方向の細溝8を軸方向の突起とすることに

格別の困難性はない。 また、文献2は、往複動シールである旨の明確な記載はないが、相対運動をなすシャフトとハウジング間に配置される密封手段であり、ここに開示された技術を往 複動シールに適用することに格別の困難性はない。

さらに、文献3は、ロッドシール装置又はピストンシール装置(第5頁左下欄第 2行~第4行を参照のこと)に関するものであり、ここに開示された技術を往複動 シールに適用することに格別の困難性はない。

したがって、文献2のシール部2の支持突起3の形状又は文献3のバックアップ リング11の接触面に設けた軸方向の突起15を文献1の2段目のリップ8に適用 して、請求の範囲1に係る発明を構成することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲

1. (補正後) 軸方向に相対的に移動する軸とハウジングとの間の環状隙間に設けられ、前記軸表面に摺接するシールリップを備えた往復動シールにおいて、

前記シールリップを2段リップ構造とすると共に、2段目のリップ表面に、軸表面に対するメインシールリップの相対移動方向に一致する方向に伸びる複数の突起を設けることを特徴とする往復動シール。

..... 1 mw/反仍然91久)